

# 戦前における私立大学校友会の役割

－ 関西地区私立大学を中心に －

原 裕 美

---

## ＜要 旨＞

本稿の目的は、私立大学校友会の形成過程及び設立初期における大学・卒業生に対して果たした役割を明らかにすることである。これらを通じて、校友会と大学・卒業生との間で構築されていた関係を俯瞰する。分析の対象は、関西大学、関西学院大学、同志社大学、立命館大学の4校（以下「関西四大学」）における校友会とする。分析には、1890年から1941年までの関西四大学の年史、当時の広報物、校友会資料を用いる。

本稿において明らかになったことは以下のとおりである。

- ・ 校友会は、卒業生の母校に対する想いと、創立者の逝去や大学昇格などの大学を取り巻く独自の環境の変化が重なって設立された。
- ・ 大学に対して校友会は、① 大学経営の担い手、② 卒業生と大学との仲介役としての役割を果たしてきた。
- ・ 卒業生に対して校友会は、卒業生の社会基盤形成の場としての役割を果たしてきた。

私立大学校友会の特徴は、戦前から卒業生の高い自主性のもと、大学経営、卒業生、学生の活動に貢献してきたことである。戦前には、校友会の活動を通じた母校の発展が卒業生の社会的地位を高めるといふ、校友会と大学・卒業生それぞれとの互惠関係が構築されていた。

---

## 1. 問題背景と目的

本稿の目的は、私立大学校友会の形成過程をその設立背景や目的から明らかにするとともに、大学と卒業生に対する校友会の役割を校友会活動の諸側面から解明することである。これらを通じて、戦前において校友会と大学・卒業生との間で構築されていた関係を俯瞰する。

---

多くの大学には学部や研究科の枠を越えた全学の卒業生から組織され、「校友会」や「同窓会」と呼ばれる卒業生組織があり<sup>1)</sup>、様々な活動を行っている。近年の厳しい大学経営状況により、校友会を巻き込み、卒業生の大学への支援をいかに得るかということが国公立問わず、大学の大きな課題となっている。特に大学側は財政的支援以外にも、学生募集、学生の留学先での世話、卒業生による授業参画、卒業生の転職支援など大学のあらゆる分野に関する支援を校友会に求めており（原 2014: 90）、校友会の支援が大学改革の可否を握っていると言える。天野（2000）は、校友会は時代の変化に伴い、その強弱は「卒業生の母校に対する満足感や帰属感の大小にかかわっているものであり、大学における教育の成否を反映している（天野 2000: 11）」と大学教育における校友会の重要性を指摘している。

このように、大学が校友会や卒業生との関係を強化し、支援を得たいと考えるのであれば、お互いが利益を得られるような互惠関係を構築する必要があるだろう。寺崎（1997）は、特に私立大学における校友会の役割は、国公立大学以上に、大学経営に対して「はるかに直接的であり、ときとして決定的なものになる（寺崎 1997: 30）」と指摘している。大学の経営環境が厳しい現在において、私立大学校友会の役割を通して、校友会と大学・卒業生との関係を考察することにより、国公立大学も含めた全ての高等教育機関や校友会が、学生・卒業生をはじめとするステークホルダーとどのように互惠関係を構築していくかという基礎的な知見を得ることができる。

## 2. 校友会に関する先行研究

1986年、日本私立大学連盟が大学職員を対象にした校友行政に関する特定研修を開催し、「海外在任者の動向把握とその組織化について」というテーマで校友会活動に関する情報交換を行ったことが報告書としてまとめられた。それ以降、日本の大学校友会に関する研究が散見されるようになる。1997年3月号及び2004年11月号の『大学時報』、2000年IDE『現代の高等教育』6月号、2007年『カレッジマネジメント』144号には、各大学における校友会の現状や課題が報告された。2000年以降の校友会や卒業生への支援を対象とし、分析したものとしては、留学生同窓会を対象とした中島（2011）や卒業生サービスに焦点をあてた大川ら（2011、2012、2015）、国立大学同窓会を対象とした高田（2010）が挙げられる。高田（2010）は、国立大学の同窓会規約を中心に分析を行い、国立大学の全学同窓会の多く

は法人化以後に設立されたことを明らかにした。これらの研究は、1980年代から現在までの各大学の校友会の現状や課題を明らかにした。

日本の校友会に関する数少ない歴史研究として、天野(2000)と寺崎(1997、2012)がある。天野(2000)は、大正末期から昭和初年にかけて高等教育機関がひとつの成熟期を迎えたため、この時期を校友会の全盛期と位置づけた。校友会の特徴を戦前は「闘う同窓会」、戦後は「親睦団体」と表現し、その役割を①大学の支援団体、②設置運営主体、③専門家ないし同業者団体、④啓蒙団体・学術団体と分類している(天野 2000)。寺崎は、戦前における校友会の役割は、「学校史伝承の役割(寺崎 1997: 31)」と財政支援への貢献であり、今後の新しい役割としては大学の「アーカイブズの充実(寺崎 2012: 9)」への協力・援助だと述べている。

一方、米国の大学校友会の形成過程に焦点をあてた歴史研究としては、江原(2009)が挙げられる。19世紀前半に設立された米国の大学同窓会は、「卒業生自身によって組織され、中には大学運営への援助を目的としたものであったものの、多くのカレッジや大学の卒業生組織の創設当初の目的は読書会を中心とした社交(江原 2009: 128)」であったが、19世紀後半から20世紀前半にかけて設立された全学校友会は、カレッジや大学という機関側からの働きかけで設立され、その目的は校友からの安定的基金の確立であったことを明らかにした(江原 2009)。

そして、現代の米国の大学校友会を対象にした研究として、清水(1987)、喜多村(1990)、飯野(1997)は、当時の米国における有名私立大学校友会の活動を事例にあげ、その実態と役割を分析した。飯野(1997)は、米国の大学が求める教育の場の拡大と大学の国際性という評価の確立には、校友会や校友会支部の働きが重要であり、それゆえに米国の大学は校友会との連携に力を入れていると主張している。そのような米国の状況を含めて、山田(2008)は、米国の大学における同窓会との連携を担う専門職の存在と日本の大学での同窓会担当専門職の必要性を説いている。鳥居(2013)は、ミシガン大学同窓会の事例を分析し、同窓会の大学に対する戦略的支援の特質を明らかにした。これらの先行研究により米国の大学校友会の歴史的背景、役割、特徴が明らかになり、校友会研究の蓄積が少ない日本にとって参考となる貴重な研究となっている。

このように、これまで日本の個別の私立大学、国立大学や米国の大学校友会を対象とした研究は行われてきたが、それらの多くは、現在の校友会を対象にしてきた。例外的に、各大学の年史にその時々々の校友会の記述が

あるが、分析の対象が当該校友会に留まる。つまり、歴史的な視野のもとに、日本における私立大学校友会の展開や役割、活動実態を包括的に論じた研究はほとんど例がない。その理由として、①従来までは、卒業生に目を向けなくても大学経営上、大きな問題がなかったこと、②校友会の問題は大学の問題というよりも、外部団体の問題として捉えられていたこと、などが挙げられるだろう。しかし、大学教育における校友会の重要性が増している今日、日本固有の成立事情や背景、条件を踏まえた校友会の意義を明らかにする研究が不可欠である。

### 3. 研究課題と分析方法

そこで、本稿では、先述したように私立大学校友会の形成過程とともに、大学と卒業生に対する校友会の役割を解明し、戦前において校友会と大学・卒業生との間で構築されていた関係を俯瞰する。そのために、次の3つをリサーチクエスチョンとして設定する。

1. 校友会はどのような背景で設立に至ったのか
2. 大学に対して校友会はどのような役割を果たしてきたのか
3. 卒業生に対して校友会はどのような役割を果たしてきたのか

これらのリサーチクエスチョンに対し、校友会の形成過程を分析するために、本稿では、関西大学、関西学院大学、同志社大学、立命館大学の4校（以下、「関西四大学」という。）における校友会を分析の対象とする。関西四大学の校友会は、関東の私立大学校友会<sup>2)</sup>とほぼ同時期に設立され、現在まで複数の学部出身者から構成される多くの卒業生を組織化するなど、歴史と規模を有している。加えて以下で明らかにするように、情報通信技術や交通網が現代ほど発達していなかった戦前において、支部の設置をはじめ卒業生を組織化する様々な過程と活動を見ることができるためである。

分析の対象時期は、1890年から太平洋戦争開戦時の1941年までの各大学校友会の設立初期とする。この時期に焦点をあてる主な理由は、①明治後期から昭和前期の社会情勢変化の中で、校友会が卒業生を組織化した経緯や実態を観察することができること、②当時の校友会の役割が、その後の校友会の展開に少なからず影響を与えていると考えられること、が挙げられる。なお、本稿で示す校友会の名称は、現在の名称で統一し、関西四大学校友会全体を指す場合には、「校友会」という名称を使用する。

本稿の分析にあたっては関西四大学の年史、当時の広報物、校友会資料

を主な資料として用いる。各大学の年史は、後代の大学や校友会、その関係者の手で編纂されたものであって分析には注意を要するが、校友会の設立初期の実態を表す一次資料であり、当時の広報物、校友会資料と比較検討することで、当時の校友会の実態を可能な限り明らかにすることができる。

以下では、まず各大学の校友会設立に至るまでの背景や目的をたどり、その形成過程を明らかにする。次に校友会の役割を、その活動、大学と卒業生との相互関係から整理する。そして最後に、私立大学校友会が果たした役割を明確にして、校友会と大学・卒業生との関係を全体的に考察する。

## 4. 私立大学校友会の歴史的展開

### 4.1 校友会設立の背景

まずは、関西四大学の校友会がどのように形成されたのかを確認していくこととする。卒業生が、「校友会」という名で組織化される前には、主に卒業生同士の親睦を目的として形成された小規模の有志の集まりが存在した。具体的には、1885年には同志社大学（当時は同志社英学校）に欧米の大学の同窓会組織にならって「アルムニ會」が創設された（上野編 1979: 624）。関西学院大学（当時関西学院）には、1890年代に卒業生だけでなく新旧教職員や在校生をも会員とした「院友会」が存在した記録が残されている（関西学院同窓会編 2014: 182）。立命館大学には1903年9月、同大学の前身である京都法政専門学校の「校友会規則」が定められており、これが同大学における「校友会」の初出である（立命館百年史編纂委員会編 2000: 201）。また、1904年11月13日には在京校友茶話会や「校友小会」など小規模の会が同時期に開催されている（立命館百年史編纂委員会編 1999: 664）。関西大学校友会においては校友会の前身の存在が確認できなかった。

関西四大学における校友会設立日及び設立背景は、表1のとおりである。

表1 関西四大学における校友会設立日及び設立背景

校友会設立日 及び校友会名	校友会設立の背景
1890年1月28日 同志社校友会 ※アルムニ會の設立は1885年。	動機：創立者の逝去 「彼等がアルムニ會から一步を進めて、更に廣く校友會を組織するに至つたのは、要するに彼らの胸裡に燃えて止まなかつた、母

	<p>校愛發現の結果である。而して彼等の母校愛に焰を點じ、熱を興経たものは、之れ新島先生の至誠至情に對する、制し難き感激其ものであり、先生の偉大なる人格の及ぼせる所であらねばならぬ（同志社五十年史編纂委員会編 1930: 382）。」</p>
<p>1897年12月19日 関西大学校友会</p>	<p>動機：学閥打破運動<sup>3)</sup>への呼応及び大学のタイミング 「校友会が設立される動機となったのは、明治29（1896）年から30（1897）年にかけて東西呼応して起こった『学閥打破運動』において、和仏法律学校の校友会が『帝国大学卒業生を無試験にて高等文官に任用するを非とするの議』という論考を寄せたことに刺激されたためであるが、そのほかにも明治31（1898）年秋に本校が第10回の卒業生を送り出す時期にあたっていたことなどがあつた（関西大学年史編纂委員会編 2007: 14）。」</p>
<p>1898年8月29日 関西学院同窓会</p>	<p>動機：親睦・同窓生間の連絡等への利便性 「明治31年（1898）8月29日、（中略）学院出身者の主唱で（中略）『同窓懇親会』が結成された。その主旨に依ると神学部は既に其卒業生を以て同窓会を組織し毎年1回年会期中に開会していたが普通学部には未だその組織が無く統一融和を缺いていたので、この際単に両学部の卒業生だけでなく学院に縁故ある教師、学生を網羅する広汎な集合体を組織して相互の親睦を深め同時に学院を記念する風を助長すべし（関西学院同窓会編 1979: 10）。」</p>
<p>1919年11月23日 立命館大学校友会</p>	<p>動機：大学昇格に向けた全国校友の組織化 「這次大学昇格の議まづ校友間に起り、問題の前提が基金公募の実行にあるを具陳するや、創立者は他の義捐を求めざりし従来の矜持を毀つことを遺憾とし、寧ろ昇格の申請を棄却せんとする色あり（立命館百年史編纂委員会編 2000: 391）。」 「然るに大学令に依る大学に昇格するには五十万円の供託金が必要である、（中略）これを昇格せしむることは殆ど不可能とも云ふ状況であつた。右の状況で母校を昇格せしむには当然校友が中心となつて第一線に立たねばならぬ事情にあつた。（中略）母校の将来を劃する上に於て亦吾々校友の地位を高める点に於ても是非昇格が必要であつた。（中略）然るに当時は校友会の組織すらない有様であつたので先づ校友会の組織から始め、而して昇格問題を校友会の仕事に移すといふ状況にあつた（同上: 425）。」</p>

出所：筆者作成。記載順は校友会設立年の順番。

関西四大学の中で最も早く設立した校友会は同志社校友会である。1890年1月23日に創立者の新島謙が急逝し、同年1月28日には円山公園左阿弥楼にて集会を催した。そこで「校友会綱領」なる規則を協議可決し、急速に活動を展開しはじめた。これらの「直接動機は、新島の校友会員への遺言によるもの（同志社々史々料編集所編 1965: 604）」であった。

関西大学校友会は、1889年に第1回の卒業生が輩出されてから、校友の間には組織的な校友会の設立が要望されており、1891年頃には校友有志が学校当局と種々折衝の上、校友会規則のみは既に成文となった（喜多村編 1936: 23）。その後、校友有志の間で、校友の名誉を維持し母校の隆昌を図るためには校友会の実現が急務との結論に至り、1897年、在学時からの学生兼書記であった垂水善太郎らが発起人となり、恩師を迎えて大懇親会を開催し、校友会を発足させた。当時の学閥打破運動や第10回目の卒業生を送り出す時期を目前に控えていたことも校友会設立の動機としている。

関西学院大学には、関西学院が1889年に創設されて以来、卒業生が組織化された機関が無かったため、しばらくは卒業生相互もしくは学院と卒業生との連絡も思うようにいかなかった。そこで、新たに同窓会を組織してこの欠点を補おうとする念が強まり、1898年、神戸在住の学院出身者の主唱で「同窓懇親会」が結成された（関西学院史編纂委員編 1929: 48）。

立命館大学校友会の設立の背景には、大学昇格運動があった。同校友会は、「大学昇格運動以前には、京都、大阪、東京といった卒業生の多かった都市を中心に、それぞれの地域の校友会が自律的に、独自の活動を開始していたが、大学昇格の問題を契機に校友会の全国組織化と学園への経営参加の道を歩み出した（清水 1997: 246）」。

校友の地位を高める点においても、大学昇格が必要であり、まず校友の間に大学昇格を求める声があがった（立命館百年史編纂委員会編 2000: 425）。一方、当時の立命館館長中川小十郎は、創立二十周年記念祝賀校友大会において「昇格のことは本學に在りては他の學校の如く差し迫りたる必要はありませぬ故に之を現下の問題として考慮は致しては居りませぬ（立命館五十年史編纂委員会編 1953: 183）。」と主張したため、1919年、大学昇格運動を契機に校友会として卒業生を組織化して中川を説得、昇格問題を校友会の仕事に移した。

このように、関西四大学校友会の設立に関する共通点は、卒業生の母校に対する思いから自主的に設立に至ったことである。一方、その背景には、その大学を取り巻く環境の変化という独自の要因があった。

## 4.2 校友会の使命

関西四大学校友会の設立初期における共通の目的は、主に「母校の発展」である。関西大学校友会、関西学院同窓会、立命館大学校友会は、「母校の発展」に加えて、「親睦」をも目的としている。関西大学校友会は、「本會ハ會員ノ名譽ヲ維持シ併セテ關西大學ノ隆盛ヲ計ルヲ以テ目的トス（喜多村編 1936: 25)」。立命館大学校友会の目的は、「第三条 本會ハ母校ノ発展ヲ期シ校友相互ノ親睦ヲ図ルヲ以テ目的トス（立命館百年史編纂委員会編 2000: 390)」。関西学院同窓会は、「第二條 本會ハ関西学院現在並ニ旧來教師、卒業生、在院各科最高級生及一年以上在学セシモノニシテ当時院外ニアル人士ヲ以テ組織シ相互ノ交際ヲ親密ニスルヲ目的トス（関西学院同窓会編 1979: 10)」である。関西学院同窓会は、親睦を主な目的として設立されたが、設立 10 年後の 1908 年にはその目的に『学院の進歩発展を助成する』を加え、同窓会が学院の重要案件を議定するときは学院に提出する、が決議された」が、その「背景には、当時学院が進めていた専門学校令による高等学部認可と徴兵令による認定（関西学院創立 125 周年記念事業推進委員会年史実行委員会編 2014: 183)」などがあつた。

一方、同志社校友会は「母校の発展」のみを目的とし、「親睦」は目的としていない。同志社校友会の設立時における目的は、「同志社校友会は同志社総長及び社員ノ選挙、学校組織ノ変更、其他重大な事件に關シ社員會より諮詢を受けたるとき其意見を提出し又諮詢を待たずして意見を提出するものとす（同志社々史々料編集所編 1965: 602)」である。同志社校友会はこれを「母校の維持発展の担い手としての責務を自らに課そうとしたものであり、その決意表明（上野編 1979: 628)」だと述べている。

関西四大学校友会の使命は、「母校の発展」という共通性を持ちつつ、校友会による違いと同じ校友会でも時期的変化がみられる。「大学昇格さえすれば卒業生に対する評価もやはり変わってくる（関西大学年史編纂委員会編 2007: 365)」ことから、戦前には、母校の発展が、卒業生にとっても社会的地位を高めることに繋がると考えられていたと推測される。

## 5. 大学と校友会の関係

### 5.1 大学側の期待

こうした校友会の設立背景やその使命のもとで、校友会に対して大学は何を期待していただろうか。当時、大学側が校友会に対して最も期待した



のは、財政的支援である。校友会の自主的な大学に対する募金活動は、関西四大学校友会に共通して行われている。同志社校友会は創立者新島讓の死去に伴い、1890年1月28日、記念神学館新築計画として募金を募集し、米国でも「普通学校維持」を目的として10万ドルを募集することとした。1910年3月の校友総会では、同志社大学開設準備基金募集の決議がなされ、1911年に基金28万円の募金を達成し、1912年には大学開校となった。

関西学院同窓会は、1904年1月16日、同窓会総会にて関西学院の書籍館に図書を寄付する件を決議している(関西学院史編纂委員編 1929:48)。

関西大学は、1922年、大学昇格のため、拡張後援会を設立し、寄付を募った(関西大学学報局 1922:17)。関西大学校友会は支部ごとに大学の拡張基金に応じた(関西大学百年史編纂委員会編 1986:294)。

立命館校友会は1920年より母校昇格のための基金募集を展開した。目標額の5万円に対し、192名より20万5400円の基金が集まった。その結果として、1922年6月25日の大学昇格祝賀会においては、協議員を講師校友10名から40名に増員する旨を報告している(立命館百年史編纂委員会編 2000:413)。

また、社会で活躍する卒業生も大学にとっては大きな支援者であった。関西大学では、九州法曹界で活躍する卒業生が新校舎を見学する際には、関西大学理事4名、監事と校友2名によって歓迎会が開催されている(関西大学学報局 1922:17)。同志社大学では、「1907年2月に一団の有力な校友が新社長に会い、同志社の年間経常費分の金額を特別に募金することを約束した。1907年6月15日までには、すでに五千円まで寄付の約束(ポール 2010:3)」がなされていた。立命館大学の大学昇格申請追加書類には、「出身者中社会ニ於テ相当地位ニアル者ノ職業及氏名」として、弁護士27名、司法官15名、官公吏16名、実業で活躍する者49名、その他(医師、議員等)3名の職業と氏名が記載されている(立命館百年史編纂委員会編 2000:404-7)。このように校友会や社会で活躍する卒業生は、どの大学にとっても強力な支援者であり、社会的地位を高めるための後ろ盾であった。

それでは当時の大学関係者は、どのように校友会を捉えていたのか。

立命館大学校友会や同志社校友会は、欧米大学の同窓会組織を模範としていた。立命館大学法学博士の織田萬は、欧米の母校と校友との関係を、1946年3月26日に開催された京都の校友倶楽部で次のように説明している。

「英米の学校に於きましては、官立私立の別なく卒業生と母校との関係厚く、卒業生は種々母校の事務に關与する権利を有して居る、其重要な一例を挙げれば、大学総長の投票権を有して居ることでありませす。(中略)即ち校友と母校との關係は啻に義務觀念により成り立つのみならず、権利觀念の上にも成立つて居ると謂ふことができやうと思ひます(立命館百年史編纂委員會編 1999: 668-9)。」

この説明で紹介された關係のように立命館大学では、「校友は母校に対して義務とともに『母校の事務に關与する権利』を持っており、評議員(協議員)への校友の選任はその権利の表明(立命館百年史編纂委員會編 1999: 669)」であり、校友は大学経営の担い手として期待されていた。

関西大学学長兼校友会会長の神戸政雄によれば、卒業生は「本学の基地、商都大阪に多く活躍しては居るが、其上にも全国の殆んど到る処に、更に外地、満州の各地にも亘つて活動して居る。そして此等校友の融和を計り且つ結束を堅くする事は各校友の活動を便利ならしめ、関西大学自体の発展を促進することゝもなる。校友会は之が為めに有意義である(関西大学百年史編纂委員會編 1996: 570)。」と校友会の意義を説いている。

当時の大学は、卒業生の支援により大学の社会的地位が高まり、同時に卒業生の社会的地位や信頼も高まるだろうと考えていた。人的・物的条件の乏しかった私立大学が校友会の支援をいかに期待していたかがわかる。

## 5.2 大学からの支援

上述したように大学側は校友会を通して、卒業生が団結し、大学の支援団体となることに大きな期待を寄せた。その期待を実現させるため、関西四大学が共通して、校友会に提供してきた資源は、主に人と場所である。

第一は人的資源である。校友会に関する事務処理、学長らによる校友会会長の兼務、大学役員・教員の校友会総会への出席という様々な形で大学は校友会に協力してきた。例えば、同志社大学は、関西四大学の中で唯一、職員に「校友會係」が存在した。同志社校友会が発刊した1911年の『校友會便覧』や1915年『同志社一覽』の職員名簿には、「書記(校友會係)」を担う同志社大学職員の存在が明記されている(今井編 1911: 123、奥村編 1915: 21)。

大学役員 of 校友会会長兼務の例としては、関西大学校友会会則には「第九條 關西大學學長ヲ以テ本會會長トス(喜多村編 1936: 26)」と明記されており、学長が校友会会長を兼任していた。関西学院同窓会でも設立直後

の1898年から1908年まで同学院長が同窓会長を務めた（関西学院同窓会編 2014: 271）。同志社校友会では、1907年から1919年の間のみ、大学開設準備の基金募集もあり、同志社社長原田助が校友会長を兼任した。

第二に校友会事務所である。設立時の関西四大学の校友会規則には、いずれも校友会事務所を大学事務所内に置くことが規定化されている。

一方で、大学から校友会への資金提供について、同志社大学以外、大学から校友会への運営資金提供の有無に関する資料や記録は見当たらなかった。同志社校友会綱領には「同志社との特約」<sup>4)</sup>として校友会の通信等の諸雑費は同志社が負担することが定められていたが、大学側の財政状況により大学側から同特約を廃止したい旨照会があり、1905年3月に廃止された（上野編 1979: 645-6）。その後、校友会本部は同志社事務所に置いたまま、専任事務員を校友会で雇い、事務処理を行ったことが1906年同志社校友会発行の『同志社時報』で卒業生に伝達されている（同志社校友会 1906: 3）。

### 5.3 大学に対する校友会の役割

大学にとって校友会はどのような役割を果たしていたのだろうか。結論から言えば、関西四大学校友会は共通して、大学経営の担い手として大学の動きを牽制する役割と大学を取り巻く諸団体との調整役という役割を担っていた。校友会設立後、校友会と大学の関係は常に順調ではなく、時には校友会は大学の決定に対し、強い反対行動を起こすこともあった。戦前、関西四大学の校友会と大学が対立した事例が表2である。各問題の詳細には紙幅の関係上触れないが、問題が起きた際には、卒業生が団結し、臨時校友大会を開催することが常であった。同大会で校友会は大学側の役員の出席と説明を求め、激しく大学の責任を追及した。例えば、1898年の同志社綱領削除問題は、同志社の運営理念そのものを問う重大事件であった。各地の校友会、校友有志は反対運動を展開したものの、最終的に校友会としては「社員会の綱領削除はみとめるが、その決定の手続きが不十分であった、この削除によってキリスト教主義教育は消滅したとはみとめない（上野編 1979: 447）」と大学側に理解する姿勢を示した。

表2 校友会と大学が対立した事例

校友会名	事例
同志社校友会	<p>同志社綱領削除問題（1898年）</p> <p>「一八九七（明治三〇）年五月社長に就任した横井時雄と社員会が企てたものは、徴兵令上の特典を得るために、同志社通則のうち綱領の一部分を削除することであった。（中略）綱領削除の決議が伝えられると、校友会、組合教会の人たち、他教派の指導者たち、さらにアメリカン・ボードの宣教師たちより、きびしい批判がおこった。（中略）反対運動はまず校友会の人たちを中心に行われた。各地の校友会、校友会有志は反対の意思を表明した。四月には横井ら八名の社員を迎えて、校友会有志大会が東京で開かれた。そこでは論議の末反対派が過半数を占めたので、社員らは退場してしまい、反対派は強硬な方針で社員会に立ち向かうことになった（上野編 1979: 446-7）。」</p>
関西大学校友会	<p>関西大学紛擾事件（1914年）</p> <p>「関西大学紛擾事件に就き六日午後六時より杏林倶楽部にて校友大会を開き来会者五十余名、安藤柱氏発起者を代表して挨拶を為し（中略）協議に移り二三意見の出づるありしが結局安藤柱氏の意見として（中略）三、委員に於て垂水幹事を不適任と認めたる時は同幹事の引退方法を講ずる事、（中略）決定し調査委員五名を定め午後十時散会せり（関西大学百年史編纂委員会編 1996: 184）。」</p>
関西学院同窓会	<p>同窓生の理事加入に関する問題（1911年）</p> <p>「同窓会より、理事の中に同窓代表を入れるようにとの要望を取り上げ議論しているが、合同条項を決めたばかりであるので、改正には躊躇するとの態度が示され、次回の理事会に結論を持ち越している（関西学院百年史編纂事業委員会編 1997: 261）。」</p> <p>「同窓代表を新しい理事会の理事に加えてほしいという要望は、（中略）合同経営という新しい事態の中で、これまでの短いながらも作り上げてきた伝統が変容することの危惧に対する同窓たちの当然の反応（同上: 263）」であった。結果的に「理事会で、同窓理事を合同条項（学院憲法）に盛り込む改正問題を検討する（中略）特別委員会が作られたが、その後の理事会記録には報告がなく、最終的には改正されないままに終わった（同上: 265）。」</p>
立命館大学校友会	<p>京大復帰問題（1934年）</p> <p>「立命館校友会の一部では例の六教授の復帰問題につき強硬な意見を抱くものが出てつひに表面化して中央に向かつて猛運動を起さうとする形勢になったので、学校当局では大いに憂へ廿二日午後六時</p>

から同大学講堂において緊急校友大会を開き、中川総長並に佐々木学長の出席を求め、事件の真相並に経過報告を聴取し然る後態度を決することゝなつた（立命館史編纂委員会編 1990: 105）。」
---

出所：筆者作成。記載順は校友会設立年の順番。

このように、時には大学と激しく対立する立場をとっていた校友会であったが、経営母体である教会や学生団体と大学との調整役という役割も担っていた。特にキリスト教の教会を経営母体とする学校の校友会である同志社校友会と関西学院同窓会は、その役割が顕著である。当時の大学経営に大きく関与する外部団体として同志社大学にはアメリカン・ボード、関西学院大学にはメソジスト教会が存在した。同志社校友会は、アメリカン・ボードからの独立をめぐる社員会（理事会）とアメリカン・ボードの対立問題に際し、校友会としての対応を決めなければならなかった。「校友にとって、宣教師は恩師だった（中略）。校友会員有志は、社員会と宣教師団のあいだに立って調停に奔走した（上野編 1979: 637）。」

関西学院同窓会では、1910年の学院経営は米国の南メソジスト教会とカナダのメソジスト教会の合同経営体制になっていたが、人事に占めるカナダ勢の権限が強まっていたため、同窓会有志らと学院長をはじめとする学院関係の有力メンバーが南メソジスト監督教会の諸監督に請願書を送るなど米国勢の人材の再派遣請願運動を始めた。このことは、同窓会が学院運営に関与したはじめての動きであった（関西学院百年史編纂事業委員会編 1997: 262）。このように校友会が教会等と直接調整を行うこともあった。

大学に対する校友会の役割は、大学の動向を牽制しつつも「母校の発展」を果たすため、円滑な大学経営に向けて諸団体と調整を行うことであった。一方、どのような団体が大学経営に影響を与えているかによって、諸団体との調整という役割の重要性や困難さは異なっていたといえるだろう。

## 6. 卒業生と校友会の関係

### 6.1 校友会の活動の特徴

本節では、戦前における校友会の活動を通して、卒業生にとっての校友会の意味を確認する。関西四大学の校友会設立後から1941年までの活動を表3にまとめた。校友会の共通の活動は、大学の各種問題に対する意見提出、寄付及び募金活動、社長・理事・評議員の選出、校友会館建設運動、卒業名簿作成、校友大会の実施、地方支部や年次同窓会の設立と拡充など

である。そして、それ以外の関西四大学の校友会活動は大きく ① 大学経営への関与、② 学生への支援、③ 卒業生への支援の 3 つにわけられる。特に、社長・理事・評議員の選出に関して、校友会の設立に関わった卒業生が、のちに大学の社長や理事など大学の主要な役職に就任している<sup>5)</sup>。

表 3 関西四大学校友会の活動

校友会名	共通の活動	大学経営への関与	学生への支援	卒業生への支援
同志社校友会	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学の各種問題に対する意見提出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学年史の編纂や創立者に関する出版活動</li> <li>理科部設置の計画</li> <li>私立大学国庫補助金下附請願決議</li> <li>経営母体となる教会との調整</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生の遠征時の世話</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>機関紙発行</li> </ul>
関西大学校友会	<ul style="list-style-type: none"> <li>寄付及び募金活動</li> <li>社長、理事、評議員の選出</li> <li>校友会館建設運動</li> <li>卒業生名簿作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校友による専門学校令に関する調査</li> <li>理工科系大学置の運動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学友会の討論会での審判や講演</li> <li>学生のスポーツ応援・賞品提供</li> <li>学生の母校改革運動への支援と調停</li> <li>学生の遠征時の世話</li> <li>学友会の運営への関与</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化事業</li> <li>校友会主催の新入会員歓迎の懇親会</li> </ul>
関西学院同窓会	<ul style="list-style-type: none"> <li>校友大会実施</li> <li>校友会支部や年次同窓会の設立・拡充</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>徴兵令第 10 条による認定運動への協力</li> <li>経営母体となる教会との調整</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生の表彰</li> <li>学生と教員の講演会</li> <li>校歌の作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職業仲介</li> <li>機関紙発行</li> <li>地方伝道講演の後援</li> </ul>
立命館大学校友会		<ul style="list-style-type: none"> <li>私立大学補助金下附問題に関し主務大臣、各政党本部訪問依頼</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>講演会</li> <li>学友会への関与</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>機関紙発行</li> <li>関東大地震罹災校友への援助活動</li> <li>就職斡旋</li> </ul>

出所：筆者作成。記載順は校友会設立年の順番。

校友会により、その活動の特徴は異なる。同志社校友会や関西学院同窓会

の特徴的な活動は、伝道活動であり、校友会会報には、礼拝の予定や報告などが示されている。歴史的史料の収集保存及び発行も校友会を中心に行われている。これらは、キリスト教主義に根付いた教育の賜物といえよう。関西四大学中、関西大学校友会は、会則に「第七條 本會會員ハ關西大學學生ヲ保護シ特ニ其校外ニ於ケル監督ヲ爲ス」と明記して卒業生が学生の校外活動における監督的役割を果たすこと唯一掲げるが、これは同校友会の活動にも表れており、他の校友会と比較しても学生の課外活動への支援を積極的に行っている様子が関西大学の年史で報告されている。立命館大学では館長中川小十郎が、1922年5月28日の大学昇格祝賀東京支部校友会にて校友を「将来の経営及維持に関しては後継者（立命館百年史編纂委員会編 2000: 384）」と表現したように、校友会の活動は、大学の各種問題に対する意見提出や寄付依頼など大学経営に関する事項を中心に行われた。

## 6.2 校友会の会員資格

次に校友会に参加することによってどのような人間関係が形成されるのかを知るため、校友会の構成を確認する。関西四大学校友会における共通の会員資格は、卒業生である。校友会によっては、卒業生でない教員、校友として推薦できる者、特別の功労がある者も校友会員の資格を有している。関西大学校友会と関西学院同窓会は、会員資格に教員を含んでいた。

関西学院同窓会は、会報で各会員の現況紹介の最後に「他二名の者は近時素行不治暗黒界に落ちたる由に付同窓會は其二名を除名致候（菱沼編 1899: 13）」と記し、会員が母校の名誉を汚せば除名を行うこともあった。

当時の校友会員は、表3に示した校友会活動を通して、学部や年次という枠を越えた多様な職業の卒業生や恩師と繋がることが可能であった。多様な職業の事例として、1900年の『関西學院同窓會報』における卒業生名簿16名の進路を確認すると、「教育」4名「修學」2名「布教」3名「實業」2名「官吏」1名、「死亡」4名であった（柴田編 1900: 22-3）。1911年同志社大学校友会役員19名のうち職業を確認できた15名は、同志社関係者をはじめ、牧師、教員、公務員、民間企業とその職業も様々である（今井編 1911: 3-4）。このように、情報技術が発達していない戦前において、校友会は、多様な職業の卒業生が集う人脈形成の場であったといえよう。

## 6.3 校友会支部

全国各地に居住する会員を組織化するために、関西四大学の校友会は

1941年までに表4に示す地方支部を設立した。関西四大学の校友会は、東京や大阪等の大都市をはじめ支部の新設・再編などの組織化を積極的に進めたことが、関西四大学の年史や校友会報に残されている。当時は大学や校友会の機関紙により支部の設立依頼や設立報告が行われており、こうした支部は日本だけに留まらず、海外でも中国、朝鮮、台湾を中心に展開している。それは「戦火の拡大につれて校友が国外に多数動員されたこと（関西大学百年史編纂委員会編 1986: 675）」や「国策である大陸進出に沿って支部の大陸化も進行（関西学院同窓会編 2014: 183）」したためである。

一方で、米国に支部を展開したのは、米国のキリスト教教会を経営母体とする同志社校友会と関西学院同窓会のみである。1927年の『同志社校友会便覧』を確認すると、住所を米国に置く卒業生の職業は、主に米国の大学への留学生、キリスト教教会牧師、民間企業の駐在員であった。

表4 1941年までの校友会支部一覧

校友会名	支部の所在都市
同志社校友会	北海道、毛武、東京、横浜、名古屋、北陸、京都、中丹、奈良、大阪、神戸、岡山、倉敷、広島、松山、関門、福岡、長崎、熊本、滋賀、和歌山、京城、平城、大連、台北、南部台湾、ニューヨーク、サンフランシスコ、シアトル（1928年時点）
関西大学校友会	大阪、東京、東海、神戸、明石、姫路、岡山、関門、福岡、愛媛、大連、台湾、朝鮮、奉天、新京、上海、高知、川辺、石川、チチハル、青島、京都、尼崎、牡丹江、徳島、ハイラル、富山、福井、岸和田、備後、広島、香川、芦屋、堺、奈良、蒙疆（1941年時点）
関西学院同窓会	東京、大阪、神戸、名古屋、岡山、広島、福岡、北陸、京都、関門、京城、天津、大連、奉天、新京、北京、ハルピン、在米（1939年時点）
立命館大学校友会	京都、大阪、兵庫、東京、滋賀、岡山、台湾、朝鮮、名古屋（1941年時点）

出所：筆者作成。記載順は校友会設立年の順番。各校友会の出典は次のとおりである。同志社校友会、1927、『同志社校友会便覧昭和3年用』、10-3。関西大学百年史編纂委員会編、1986、『関西大学百年史通史編上』、675-6。関西学院同窓会編、1979、『関西学院同窓会会員名簿（同窓会小史）学院創立90周年記念版』、19。立命館百年史編纂委員会編、1999、『立命館百年史 通史一』、670。

会員資格に教員を含む校友会では、支部の設立に教員が重要な役割を果



たしていた。関西大学校友会では、最初の支部となる東京支部の1911年の「発会式では支部長（加太邦憲元学長）、副支部長（河村善益前学長）、評議員（入江良之他在京講師二十七名）、幹事（第一回卒業生内田重成、武田宣英ら十六名）などが選ばれ、あわせて支部会会則が定められた（関西大学百年史編纂委員会編 1986: 293)」。関西学院同窓会では4名の教授らが、支部の督励や設立のため各地に派遣された（関西学院同窓会編 1979: 19)。

校友会支部は、当該地域における卒業生の親睦を深めるとともに、職業仲介、講演会の開催、学生の遠征時の世話などを行っていた。国内では、関西大学校友会が国内支部の要請に基づき、時局講演会を催し、一般市民も聴講可能とした（関西大学百年史編纂委員会編 1986: 676)。海外では、同志社校友会のシアトル支部は、24名の学生見学団と食事を共にしたことが1926年の『同志社校友同窓會報』に報告されている（奥村編 1926: 4)。

このように校友会支部は、①当該地域における社会貢献の場、②学生の遠征時の学びの場、③母校から離れた場所に生活する卒業生の社会基盤形成の場、④生涯学習の場であったと考えられる。

## 7. 考察

本稿では、3つのリサーチクエスチョンを設定し、私立大学校友会の形成過程と役割を整理した。それぞれの考察を行いつつ、戦前の校友会が大学・卒業生とどのような関係を構築していたのかをまとめておこう。

### RQ1. 校友会はどのような背景で設立に至ったのか。

関西四大学における校友会設立の背景で共通しているのは、卒業生の母校に対する思いから校友会の設立がはじまったことである。その設立の動機となったのは、創立者の逝去や大学昇格などその大学を取り巻く独自の環境の変化であった。また、設立初期における校友会の主な使命は、「母校の発展」であり、大学も校友会も、卒業生の支援により大学の社会的地位が高まれば、卒業生の社会的地位や信頼も高まると考え、校友会活動を推進し、大学側も人的資源や校友会事務所の場所を提供し、校友会を支えた。

### RQ2. 大学に対して校友会はどのような役割を果たしてきたのか。

大学に対して校友会が果たした役割は、次の2つに整理できる。

第一に、戦前の私立大学校友会は、大学経営の担い手としての役割を果たしてきた。大学の教育研究条件や施設・設備の充実に関する財政的支援

はもとより、各種問題に対する諮問機関として大学の決定事項や諸規程に直接的な影響を与えた。その役割は、校友会と大学（理事会）との対立問題を通して確認することができた。また大学を牽制する役割だけではなく、大学が関係団体と対立した場合の調整役的役割を担っていた。これらの結果は、先行研究で取り上げた寺崎（1997）の校友会は大学経営に対する直接的かつ決定的な役割を担うという主張を裏付けるものとなった。

第二に、校友会は募金活動、卒業生名簿・校友会報の発刊、校友大会の実施、年次同窓会や支部の設立と拡充などの活動によって、卒業生同士及び卒業生と大学を繋ぐ仲介の役割を果たした。特に卒業生自らが母校の発展を訴え、広報活動に取り組むことは、他の卒業生の関心を母校に向けさせた。その結果、教育研究条件や施設設備の充実を実現し、大学昇格をはじめとする大学の発展に多大なる貢献をした。

### **RQ3. 卒業生に対して校友会はどのような役割を果たしてきたのか。**

卒業生に対して校友会が果たした役割は、次の2つに整理できる。

第一に、校友会は、学生・卒業生への支援、一般市民への社会貢献活動、大学経営への関与、講演会など、卒業生へ様々な機会を提供した。第二に、校友会の会員資格は、主に卒業生、大学教員であった。卒業生は各学部や年次同窓会で親睦を深めるだけでなく、全学規模の校友会の活動に参加することで、恩師をはじめ、多様な職種の卒業生と人脈を形成した。さらに校友会は支部を展開し、全国・海外に広がる卒業生の社会基盤を支えた。

これらのことから、戦前における日本の私立大学校友会は、先行研究で明らかにされた米国の大学校友会の「読書会を中心とした社交」とは異なり、卒業生の高い自主性に基づき設立され、大学経営に大きく関与する組織であったことが明らかになった。校友会は、「母校の発展」を使命とし、国内外に支部を展開しつつ、大学経営、卒業生、学生の活動に貢献してきた。校友会により活動や役割が異なる要因は、卒業生の進路、大学を取り巻く関係者の存在、その大学独自の環境などが考えられる。さらに校友会は、卒業生が卒業後も大学や教員とつながる機会を提供し、その社会基盤の後ろ盾ともなった。このように当時は、母校が発展することが、卒業生の社会的地位をも高めると考えられており、校友会と、大学・卒業生それぞれとの互惠関係が構築されていたといえよう。

## 8. おわりに

最後に、本稿で残された問題点を指摘しておきたい。第一に、本稿においては、関西四大学の年史を中心に分析を進めたが、それらは後代に編纂されたものであるため、今後は当時の大学側の記録文書や議事録を緻密に分析していく必要がある。第二に、本稿では、戦前の校友会に注目したが、その後現在に至るまで戦中・戦後の校友会はどのように活動し、大学・卒業生に対して果たしてきた役割が変容したのかを探る必要がある。これらの考察によって、校友会の設立初期から現代までの大学・卒業生との関係の変化がより明確となる。第三に、現代における校友会・大学・卒業生の互惠関係の構築モデルを確立するため、卒業生や学生自身が、校友会をどのように考えているのかを調査する必要がある。卒業生や学生のニーズと校友会活動の実態を分析することによって、卒業生・学生の立場から互惠関係を考察できる。これらを今後の課題としたい。

### 注

- 1) 本稿では校友会・同窓会全体を指す場合は、「校友会」という名称を用いる。それは関西四大学における規程の理事構成に「校友五名」などの記載があり、「校友」という言葉が大学運営において使用されていること、当時卒業生を指す言葉は「校友」であったと考えられることからである。
- 2) 関東の主な私立大学校友会の設立年は次のとおりである。1880年慶應連合三田会、1885年法政大学校友会・明治大学校友会、1886年早稲田大学校友会、1893年青山学院大学校友会、1907年立教大学校友会。ここで示した名称は現在の名称を使用している。
- 3) 学閥打破運動は次の学生運動を意味する。「東京の六法律学校の学生を中心に、帝国大学卒業生の無試験高等文官登用についての反対運動がおこった(関西大学百年史編纂委員会編 1986: 166)」。「関西法律学校学生も之に同情を表し、(中略)書を六大法律学校連合運動委員に送り、東西相呼応して盛んに反対運動(関西大学百年史編纂委員会編 1986: 167)」を起した。
- 4) 「第六 同志社との特約 第一項 本会の事務は委員の指揮により同志社普通学校庶務局に之を履行せしむるを得。第二項 本会通信等の諸雑費は同志社にて之を負担す。第三項 同志社総長及社員選挙、学校組織の変更、其他の事件は同志社より必ず本会に諮詢するものとする(同志社々史々料編集所編 1965: 603-4)。」
- 5) 同志社校友会の原田助(同志社大学社長)、下村孝太郎(同志社大学社長)、

関西大学校友会の垂水善太郎（関西大学専務理事）、立命館大学校友会の池田繁太郎（立命館大学理事）、畝川鎮夫（立命館大学理事）、関西学院同窓会の長谷基一（関西学院依托委員）などがその代表である。

## 参考文献

- 天野郁夫、2000、「大学の同窓会－歴史と展望」『IDE 現代の高等教育』419: 5-11。
- 今井隆吉編、1911、『同志社校友会便覧』、同志社校友会本部。
- 飯野正子、1997、「校友会活動の日米比較」『大学時報』46(253): 58-61。
- 上野直蔵編、1979、『同志社百年史 通史編一』。
- 江原昭博、2009、「アメリカにおける大学の同窓会－その成立過程と日本への示唆」『国立教育政策研究所紀要』138: 125-39。
- 江原昭博、2010、「アメリカの大学における卒業生を対象とする研究－Alumni Studiesの歴史的変遷」『早稲田大学大学院文学研究科紀要』第1分冊: 155-68。
- 大川一毅、2011、「大学と校友の「相互支援関係」を考える「卒業生サービス」の意義と課題」『東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会研究集録』61: 96-101。
- 大川一毅ほか、2012、「国立大学における「卒業生サービス」の現況と課題」『大学論集』43: 319-36。
- 大川一毅ほか、2015、「日本の大学における卒業生サービスの現況と課題－全国大学アンケートとヒアリング調査の結果をふまえて」『大学論集』47: 185-200。
- 奥村鶴松編、1915、『同志社一覽』。
- 奥村鶴松編、1926、『同志社校友同窓會報』。
- 関西大学學報局、1922、『千里山學報』創刊号、1922年6月15日。
- 関西大学學報局、1922、『千里山學報』第2号、1922年7月15日。
- 関西大学百年史編纂委員会編、1986、『関西大学百年史通史編上』。
- 関西大学百年史編纂委員会編、1996、『関西大学百年史資料編』。
- 関西大学年史編纂委員会編、2007、『関西大学百二十年史』。
- 関西学院史編纂委員編、1929、『関西学院史－開校四十年記念』。
- 関西学院創立125周年記念事業推進委員会年史実行委員会編、2014、『関西学院事典 増補改訂版』。
- 関西学院同窓会編、1979、『関西学院同窓会會員名簿（同窓会小史）学院創立90周年記念版』。
- 関西学院同窓会編、2014、『関西学院創立125周年記念関西学院同窓会史 はばたく自由－Message from Alumni』。
- 関西学院百年史編纂事業委員会編、1997、『関西学院百年史 通史編I』。
- 喜多村和之、1990、「同窓会（Alumni）の意義－アメリカの場合を中心に」『大学と学生』297: 7-13。

- 喜多村桂一郎編、1936、『関西大学創立五十年史』。
- 財団法人立命館、1914、『立命館学報』第1号、1914年2月28日。
- 柴田勝衛編、1900、『關西學院同窓會報』第三号、1900年9月24日。
- 清水畏三、1987、「アメリカの大学校友会－その母校愛と寄附」『大学時報』36(192): 46-9。
- 清水教好、1997、「戦前期校友会の動向を巡る一考察－「立命館大学」校友会の場合」『立命館百年史紀要』5: 217-49。
- 下里貞次郎編、1905、『同志社新聞』第1号、1905年1月1日。
- 高田英一、2010、「国立大学における全学単位での同窓会の現状について－全学同窓会の規約を中心に」『大学評価研究』10: 79-87。
- 寺崎昌男、1997、「大学の歩みと同窓会・校友会」『大学時報』46(253): 30-3。
- 寺崎昌男、2012、「大学改革と同窓会・校友会」『私学経営』448: 4-10。
- 同志社校友会、1906、「校友会員諸君に告ぐ」『同志社時報』24: 3。
- 同志社校友会、1927、『同志社校友會便覧昭和3年用』。
- 同志社校友会、1932、『同志社校友同窓會報』1～8号。
- 同志社五十年史編纂委員会編、1930、『同志社五十年史』。
- 同志社々史々料編集所編、1965、『同志社九十年小史』。
- 中島清、2011、「留学生同窓会の活動、その役割と方向性について」『福井大学留学生センター紀要』6: 1-9。
- 日本私立大学連盟編、1986、『日本私立大学連盟特定研修報告書校友行政昭和61年度』。
- 原裕美、2014、「私立大学同窓会における海外支部の役割」神戸大学大学教育推進機構『大学教育研究』23: 75-94。
- 菱沼平治編、1899、『關西學院同窓會報』1899年3月5日。
- ポール・グリーシー著、北垣宗治訳、2010「同志社の土着化」同志社大学『同志社談叢』30: 1-36。
- 立命館五十年史編纂委員会編、1953、『立命館五十年史』。
- 立命館史編纂委員会編、1990、『立命館八十五年史資料集・第八集』。
- 立命館百年史編纂委員会編、1999、『立命館百年史 通史一』。
- 立命館百年史編纂委員会編、2000、『立命館百年史 資料一』。
- 山田礼子、2008、『アメリカの学生獲得戦略』玉川大学出版部。